

『自然と共生した街づくりと防災』

日本は、地理的な条件から火山噴火、地震、台風などによる自然災害が多い国であり、人智の及ばぬこうした自然の力の前で、日本人は、昔から自然を敬い、自然に畏敬の念をいだき、自然の摂理に従いながら、豊かな自然の恵みを受け生活をしてきました。

しかし、明治維新以降の文明開化のかけ声のもと、西洋的な生活様式の普及と科学技術のめざましい進歩により、「自然は人間の力により管理・支配できるものである」という価値観が浸透し、いつしか「自然と共生して生活する生き方」を忘れてしまいました。

東日本大震災をはじめ、これまでの自然災害の経験から、「日本に合った自然との付き合い方」をもう一度考え直し、「街づくりと防災」について考えたいと思います。

持続可能な社会とは、自然の脅威と恩恵を共に受け入れる自然共生社会であり、有限な自然資源を適正に利用する循環型社会であり、再生可能なエネルギーを活用した低炭素社会であるということが出来ます。

本企画は、主催団体である一般社団法人 生物多様性保全協会が自然の視点から、また、協力団体である一般社団法人 カーボンマネジメント・アカデミーが省エネと3Rの視点から、そして共催団体である公益社団法人 日本技術士会 環境部会が全体を総括し、「自然と共生した街づくりと防災」について一緒に考えます。

<企画団体>

主催：一般社団法人 生物多様性保全協会

URL <http://biodiversity.or.jp/>

共催：公益社団法人 日本技術士会 環境部会

URL <http://www.engineer.or.jp/dept/kankyo/default.html>

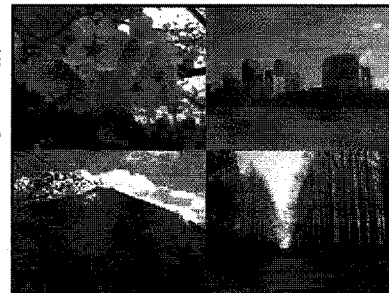
協力：一般社団法人 カーボンマネジメント・アカデミー

URL <http://carbon-academy.org/>

自然と共に生きてきた国

かつて私たちは、自然の営みの中で暮らしていました。しかし、今日の科学技術の進歩は、自然の影響から離れて暮らす力を与え、さらに自然に大きな影響を及ぼす存在にまでなっています。私たちは、自然を自由に操る魔法の力を手に入れたのでしょうか？

東日本大震災からの再生を目指して、日本と日本の自然をもう一度考えてみたいと思います。

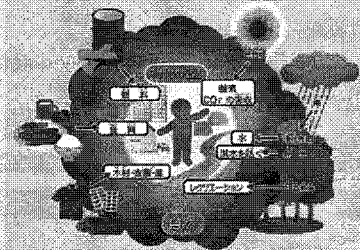


豊かな自然の国 日本

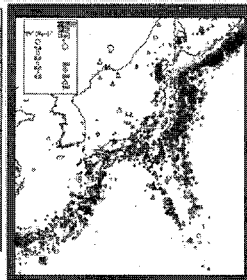
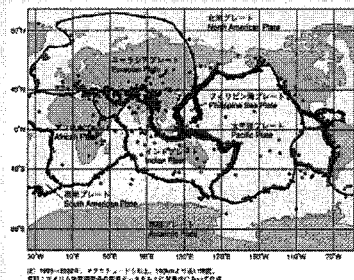
日本の年平均降水量は約 1,700mm で、世界の平均の約 2 倍となっており、豊かな水は森林を育て、自然を育み、四季折々の山の幸をもたらします。

また、日本近海は世界三大漁場の一つとなっており、豊かな海の幸をもたらします。

私たちの衣食住は自然の恵みにより成り立っています。そして、多くの自然の恵みを支えているのが基礎生産と呼ばれる光合成を行う植物と多様な生きもののつながりです。



出典:「こども環境白書 2011」環境省



地震国・火山国 日本

日本は太平洋プレートやユーラシアプレートなどのプレートの境界に位置し、世界有数の地震国であり、火山国です。

世界のプレートと地震の震央分布 (1990年～2000年までのマグニチュード 4.0以上、深さ 50kmより深い地震)

出典:気象庁ホームページ「地震と火山」より

自然災害が多い国 日本

日本はこれまで地震や津波、火山噴火により大きな被害を受けてきました。また、台風や集中豪雨による土砂災害も毎年のように発生し、世界でも自然災害の多い国です。



写真①: 新潟県柏崎市の断層 (平成 19 年 新潟県中越沖地震)
写真②: 山口県防府市の土砂災害 (平成 21 年 7 月中国 九州北部豪雨)
写真③: 住家被害と延焼被害の様子 (阪神・淡路大震災 神戸市長田区)
出典:「災害写真データベース」 (財)消防科学総合センター